

金融市場ウィークリー

2021年3月5日号

✦[目次]✦

コラム・来週の予想	1
「テーパー・タントラムの再来はあるか？」	

I. 経済・金融市場動向

金融市場レビュー	2
今週の注目チャート	3
金利：米10年国債利回りは1.5%台半ばまで上昇	
株価：日銀によるETF買入れに変化	
為替：年初来、長期金利差との相関を取り戻すドル円相場	
新興国：インドネシアのCDSスプレッドは相対的に高い水準が続く	

II. 参考資料

今週・来週の主要経済指標	5
月次・四半期のスケジュール	7
今週の金融市場の動き	10
最新レポート一覧	11

コラム:武内浩二の視点

テーパー・タントラムの再来はあるか？

米国長期金利の上昇を受けて、これまで堅調に推移してきた株式相場が変調の兆しを見せている。米長期金利上昇の背景にあるのは、市場参加者による米国の景気回復観測とそれに伴うインフレ期待の高まりである。個人消費や投資関連の経済指標が足元で改善する中、バイデン政権による大規模な追加経済対策やワクチン普及によって先行きの成長ペースがさらに加速するとの見方が強まっている。こうした景気回復に原油など商品市況も加わり、インフレに対する警戒感が高まり、FRBによる金融緩和の転換が意識されている。実際、FOMC（連邦公開市場委員会）メンバーの見通しによれば2023年末まで利上げは行われませんが、市場は2023年前半の利上げを織り込んでいる。一部ではこの夏にもパウエルFRB議長が資産購入の縮小に言及し、年内にも縮小を開始するという見方もある。これが現実となれば、長期金利は一段の上昇が予想され、まさに2013年5月に起こった当時のFRB議長であるバーナンキ氏が量的緩和の縮小（テーパリング）に言及したことをきっかけとした市場の混乱、いわゆる「テーパー・タントラム（かんしゃく）」の再来となりうる。

しかし、以下の三点からこうした心配は杞憂に終わる可能性が高いとみている。一点目は、当時と比較してFRBの利上げのハードルが上がっていることである。昨年FRBは金融政策の枠組みを見直し、インフレ目標は「平均」2%へと改め、将来的な利上げ開始の条件を「広範かつ包摂的な最大雇用が達成」と「インフレ率がしばらくの間2%を緩やかに上回ること」とした。二点目は、春先にかけてのインフレ率の上昇は不可避であるが、これはコロナの発生によって前年にインフレ率が大きく下がった反動によるものであり、インフレ基調の見極めはこうした影響が取り除かれた後になる可能性が高いことである。三点目は、テーパー・タントラムの再来を最も警戒しているのが、FRB自身であり、テーパリングの開始も相当慎重に進める可能性が高いと考えられるためである。

ただし、FRBが行動を起こさないとしても、目先は供給制約の影響が続きそうであることに加え、1.9兆ドルの追加景気対策に続いてインフラ投資などより広範な景気対策第2弾の提示も見込まれるため、市場でインフレ期待の織り込みが進み、一段の金利上昇が株式市場の調整を引き起こす「疑似テーパー・タントラム」が起こる可能性は十分にあり、当面は相場の動向に警戒が必要であろう。

市場調査部長 武内浩二

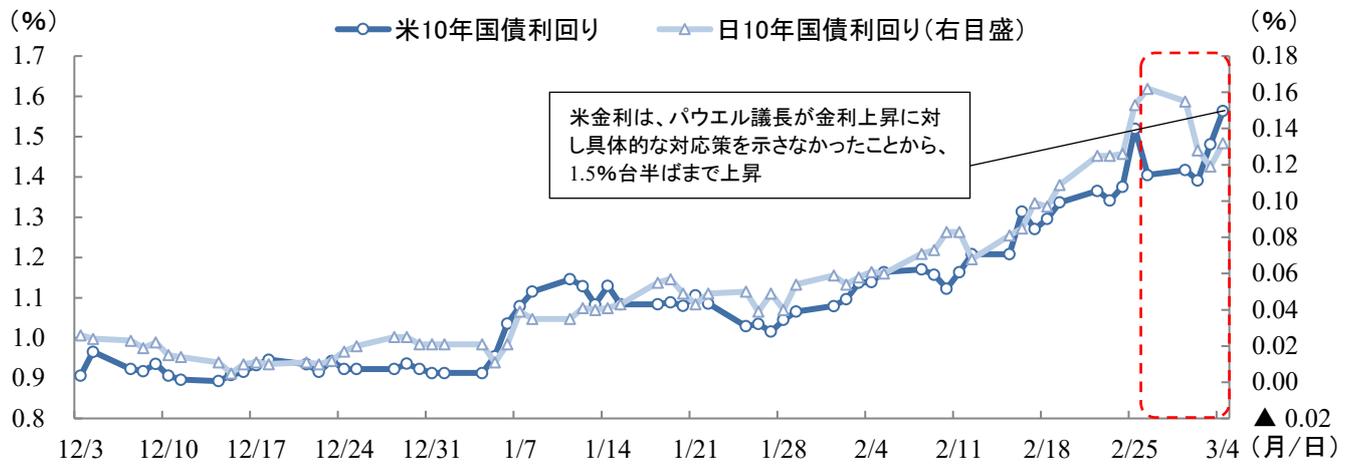
【 来週の予想 】

項目		予想レンジ
内外金利	USD LIBOR 3カ月(%)	0.15 ~ 0.25
	米10年国債(%)	1.30 ~ 1.80
	円 TIBOR 3カ月(%)	-0.10 ~ 0.00
	10年国債(%)	0.05 ~ 0.25
内外株式	ダウ平均(ドル)	30,000 ~ 31,800
	NASDAQ総合指数(ポイント)	12,100 ~ 13,290
	日経平均(円)	27,100 ~ 29,600
	TOPIX(ポイント)	1,800 ~ 1,920
為替	円/ドル	105.5 ~ 108.5
	ドル/ユーロ	1.180 ~ 1.220
	円/ユーロ	124.5 ~ 132.4

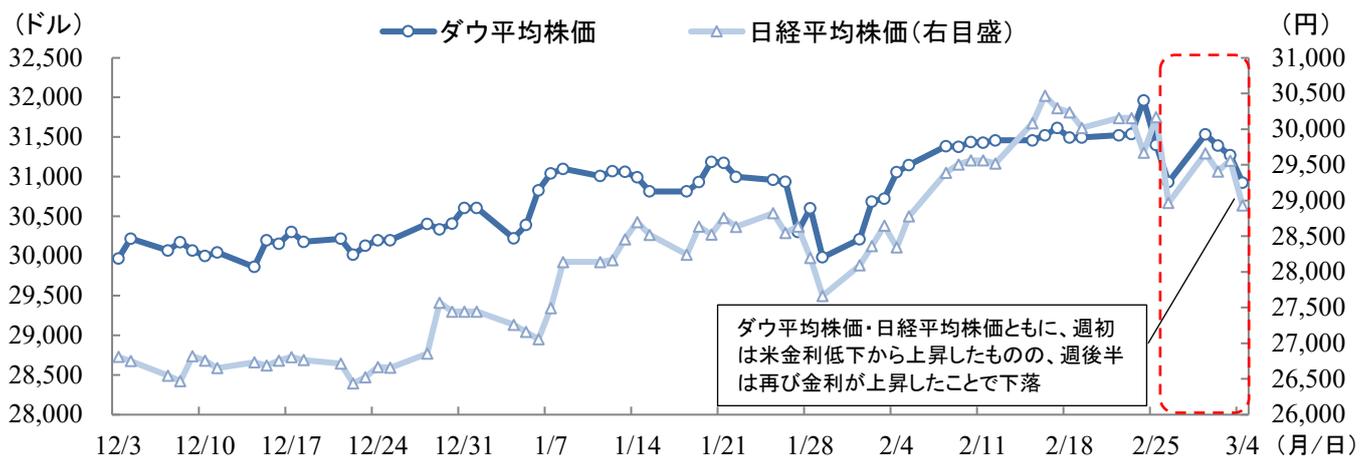
I. 経済・金融市場動向

～金融市場レビュー～

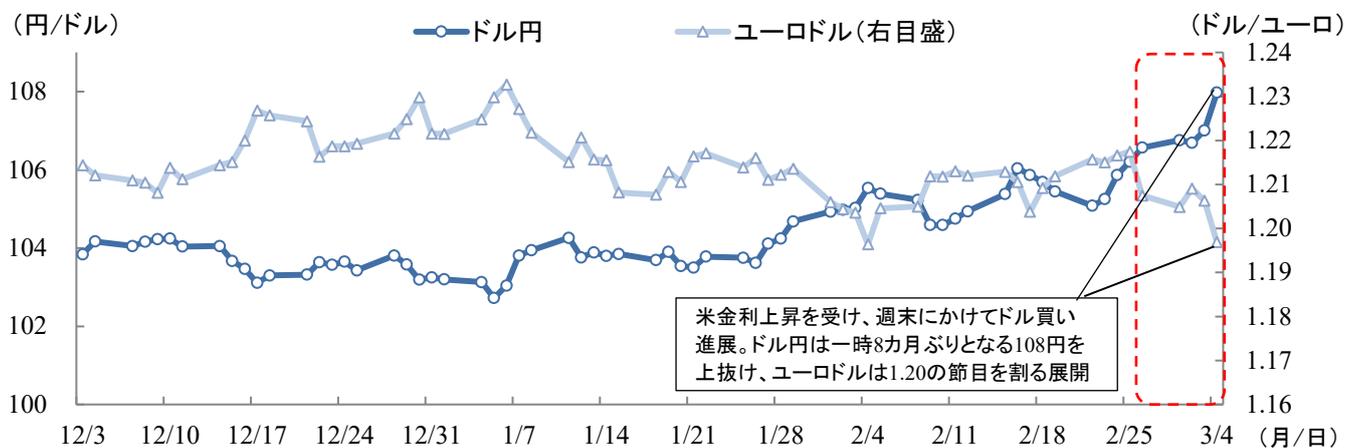
日米金利



日米株価



為替

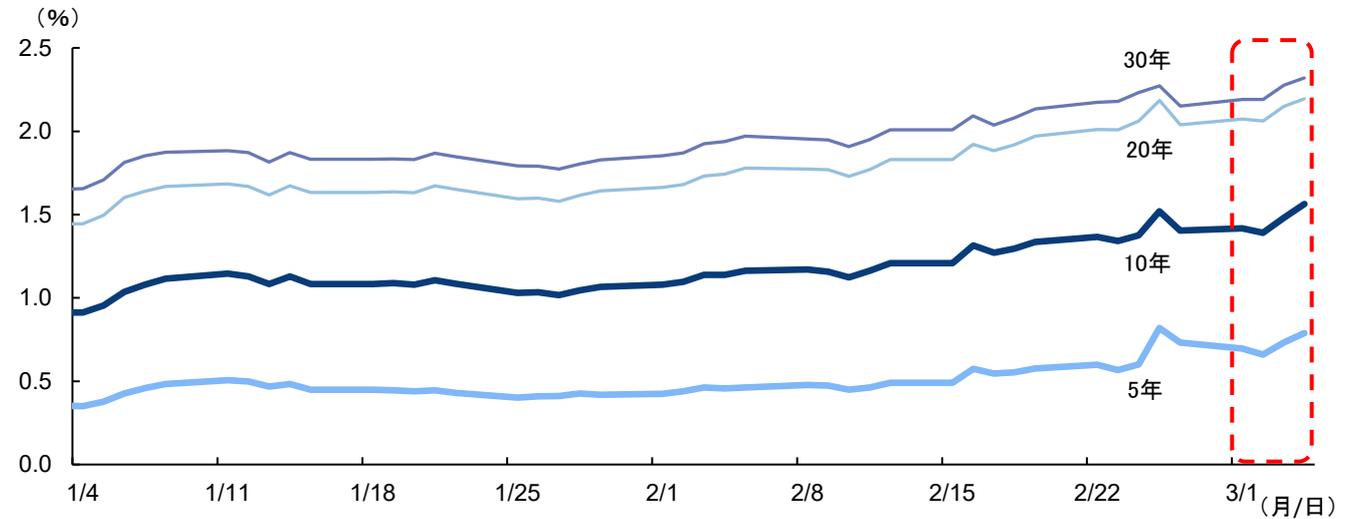


(出所) Bloomberg より、みずほ総合研究所作成

～今週の注目チャート～

【 米国債利回りの推移 】

米 10 年国債利回りは 1.5% 台半ばまで上昇

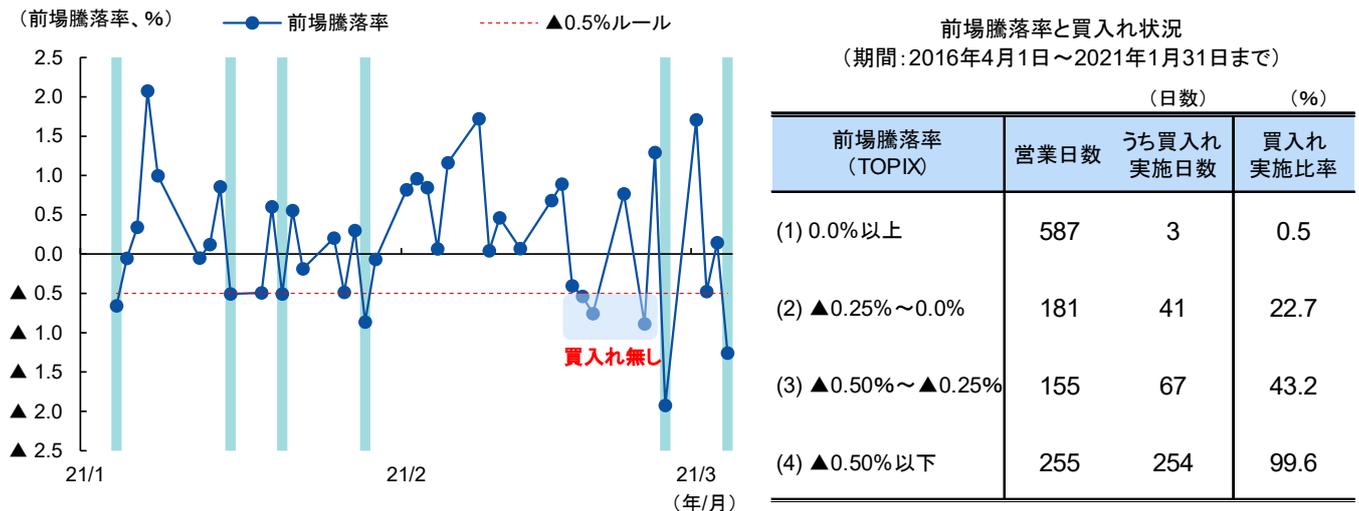


(出所) Bloomberg より、みずほ総合研究所作成

【解説】今週、米 10 年国債利回りは 1.5% 台半ばまで、5 年債利回りは 0.8% 近くまで大幅に上昇した。背景には、パウエル FRB 議長が足元の金利上昇について「注意を引くものだった」としつつも、強い懸念や具体的な対応策を示さなかったことがある。ワクチン接種進展や 1.9 兆ドル規模の追加経済対策による景気回復期待が高まるなか、来週は複数回の国債入札が予定されており、引き続き米金利の上昇リスクには警戒が必要だ。

【 日銀による ETF 買入れ 】

日銀による ETF 買入れに変化



(注) 左図のシャドーは日本銀行による ETF 買入れ実施日。右図の TOPIX 前場騰落率は(1) 前場騰落率>0.0%、(2) ▲0.25%<前場騰落率≤0.0%、(3) ▲0.50%<前場騰落率≤▲0.25%、(4) 前場騰落率≤▲0.50%として分類

(出所) Refinitiv、Bloomberg、日本銀行より、みずほ総合研究所作成

【解説】日銀による ETF 買入れは、TOPIX の前場下落率が 0.5% 以上の日には実施される傾向にあった。しかし、2 月入り後、前場下落率が 0.5% 以上だったにも関わらず買入れが実施されない日が続いており、日銀は「政策点検」の公表(3/19)を前に布石を打った格好だ。足元では、前場下落率が 1.0% を超えた際(2/26: 1.9%、3/4: 1.3% 下落)には ETF 買入れが実施されたが、当面の間は買入れ実施の有無に市場の関心が集まりそうだ。

【ドル円と日米金利差との相関係数】

年初来、長期金利差との相関を取り戻すドル円相場

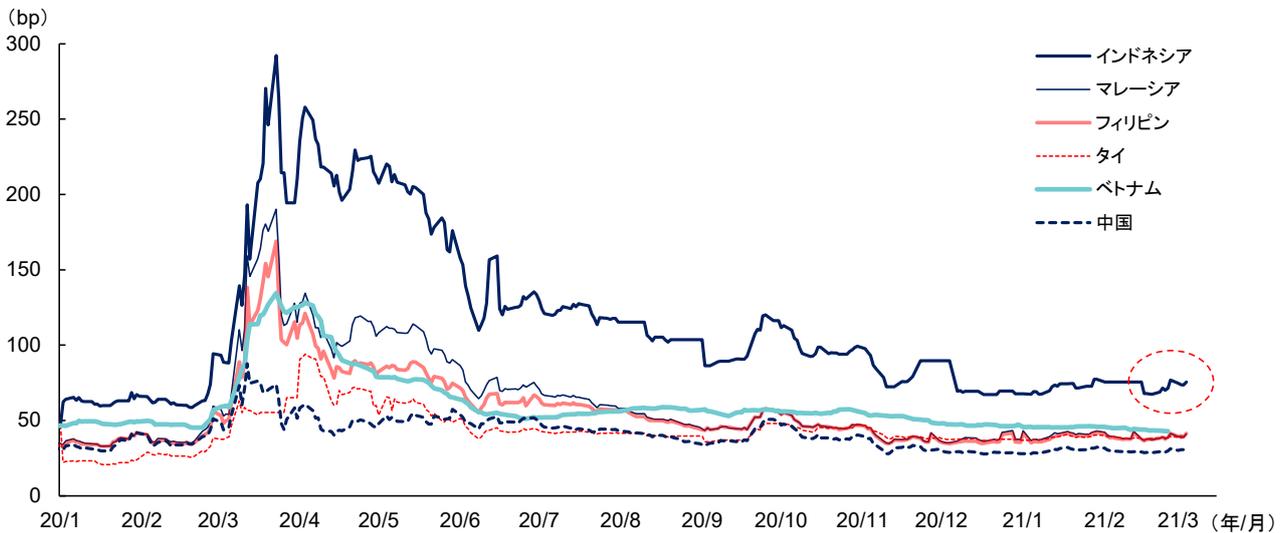


(出所) Bloomberg より、みずほ総合研究所作成

【解説】今週のドル円は一時約 8 カ月ぶりとなる 108 円台まで上昇した。昨日 (3/4) パウエル FRB 議長が足元の金利上昇に強い懸念を示さなかったことから再び米長期金利が上昇に転じたことを受け、日米金利差が拡大し、対円でのドル買い材料となった格好だ。年初以降、足元にかけてドル円と日米金利差の相関は強まっている。FRB のスタンスをにらみ、米長期金利が一段の上昇を試す局面では、ドル円にドル高円安圧力がかけやすい点に要注意だ。

【アジア各国の CDS スプレッドの推移】

インドネシアの CDS スプレッドは相対的に高い水準が続く



(注) CDS スプレッドは、5 年物

(出所) Bloomberg より、みずほ総合研究所作成

【解説】アジアの CDS 市場では、インドネシアで足元上昇の兆しがみられる一方、中国はコロナ禍前の低水準、インドネシアを除く ASEAN 各国では、40bp 付近へ収束している。政府債務の対外比率で、他国よりやや劣後するインドネシアは、中銀が 21 年成長率見通しを 0.5%pt 引き下げており、財政政策での下支えが欠かせない。ただし、同国の財政赤字は拡大傾向にあり、コロナ禍で一時的に緩和した財政規律を、今後いかに正常化するかに留意したい。

II. 参考資料

今週の主要経済指標

日付	経済指標等	今回実績	予想	前回
2/26(金)	日 2年利付国債入札:最高利回り ▲0.097%、平均利回り ▲0.099%、入札倍率 4.27倍			
	米 個人所得(1月) 前月比 +10.0%	+10.0%	+9.5%	+0.6%
	消費支出(1月) 前月比 +2.4%	+2.4%	+2.5% R	▲0.4%
	コアPCEデフレータ(1月) 前年比 +1.5%	+1.5%	+1.4% R	+1.4%
2/27(土)	G20 (20か国財務大臣・中央銀行総裁会議、ビデオ形式) (26・27日)			
	米 ミシガン大消費者信頼感指数(2月速報)	76.8	76.5	2月速報 76.2
2/28(日)	中 製造業PMI(2月)	50.6	51.0	51.3
	非製造業PMI(2月)	51.4	52.0	52.4
3/1(月)	中 財新製造業PMI(2月)	50.9	51.4	51.5
	米 製造業ISM指数(2月)	60.8	58.9	58.7
3/2(火)	日 法人企業統計(10~12月期) 経常利益[全産業] 前年比 ▲0.7% 設備投資[全産業](ソフトウェア除く) 前年比 ▲6.1%	▲0.7% ▲6.1%	N.A. ▲3.0%	▲28.4% ▲11.6%
	<p>・10~12月期の経常利益(除く金融・保険業、季節調整値)は、前期比+15.5% (4~6月期同▲27.0%、7~9月期同+32.2%)と2四半期連続で増加。国内外の経済活動の再開に伴い、企業収益は回復基調にあるものの、感染拡大前(2019年平均)の85%程度と依然として低水準</p> <p>・設備投資(除く金融・保険業、含むソフトウェア、季節調整値)は、前期比▲0.3% (4~6月期:同▲7.2%、7~9月期同▲0.7%)と前期に比べてマイナス幅は縮小もほぼ横ばい。先行指標である機械受注が急速に持ち直していることから、1~3月期は増加に転じる見通し</p>			
	完全失業率(1月)	2.9%	3.0% R	3.0%
	有効求人倍率(1月)	1.10倍	1.06倍 R	1.05倍
	<p>・1月の完全失業率は2.9%、有効求人倍率は1.10倍といずれも前月から改善</p> <p>・就業者数は2カ月ぶりに増加。ただし、対人接触型サービス業では雇用が減少し、休業者が増加</p> <p>・新規求人数は前月比▲5.4%と減少。宿泊・飲食サービス業、生活関連サービス・娯楽業などで前年比大幅減が続く</p> <p>・先行きは、製造業などで雇用改善が続く一方、緊急事態宣言の再発令の影響で、対人接触型サービス業などでの新規採用を控える動きの強まりや雇用減が予想され、21年度半ばにかけて失業率は3%前後で高止まり見込み</p>			
	10年利付国債入札:最高利回り 0.134%、平均利回り 0.131%、入札倍率 3.14倍			
	欧 ユーロ圏消費者物価指数(2月速報) 前年比 +0.9%	+0.9%	+0.9%	+0.9%
3/3(水)	米 非製造業ISM指数(2月)	55.3	58.7	58.7
	ベージュブック(地区連銀経済報告)			
	中 財新サービス業PMI(2月)	51.5	51.5	52.0
3/4(木)	日 消費動向調査(2月) 消費者態度指数	33.8	30.0	29.6
	30年利付国債入札:最高利回り 0.700%、平均利回り 0.691%、入札倍率 2.77倍			
	米 パウエルFRB議長対話(ウォールストリートジャーナルジョブズサミット) (ライブストリーム)			
	馬 金融政策決定会合			
	・政策金利を1.75%に据え置き			

予想:情報ベンダー(Bloomberg 等)の取りまとめた予想コンセンサス。米国の経済指標は特に断りのない限り季調値。

Rは改定値。

日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス、中:中国、韓:韓国、印:インド、
尼:インドネシア、泰:タイ、比:フィリピン、伯:ブラジル、馬:マレーシア

来週の主要経済指標

日付	経済指標等	予想	前回	前々回		
3/5(金)	米					
	雇用統計(2月) 失業率 非農業部門雇用者数 時間当たり賃金(全従業員ベース)	前月差 前月比	6.3% +198千人 +0.2%	6.3% +49千人 +0.2%	6.7% ▲227千人 +1.0%	
	貿易収支(1月)	財・サ収支	▲675億 ^{ドル}	▲666億 ^{ドル}	▲690億 ^{ドル}	
3/8(月)	日	両宮日銀副総裁講演(読売新聞オンライン/ライブ配信)				
		国際収支(1月速報)	経常収支 (前年比) 貿易収支 (前年比)	+12,306億円 +86.0% ▲393億円 -	+11,656億円 +113.9% +9,651億円 +1274.8%	+18,784億円 +29.0% +6,161億円 -
		景気動向指数(1月速報)	先行DI 一致DI 先行CI 一致CI	N.A. N.A. 96.8 91.7	70.0% 88.9% 95.3 88.3	100.0% 100.0% 96.1 89.0
		景気ウォッチャー調査(2月)	現状判断DI	34.0	31.2	34.3
3/9(火)	日	GDP(10~12月期2次速報)	前期比	+3.0%	1次速報 +3.0%	7~9月期 +5.3%
		毎月勤労統計(1月速報)	名目賃金 前年比	▲1.7%	▲3.0%	▲1.8%
		実質消費支出[二人以上の全世帯](1月)	前年比	▲2.1%	▲0.6%	+1.1%
		マネースtock(2月速報)	M2 前年比 M3 前年比 広義流動性 前年比	+9.6% +7.9% N.A.	+9.4% +7.8% +5.6%	+9.1% +7.6% +5.3%
		5年利付国債入札				
		米	3年国債入札			
3/10(水)	米	消費者物価指数(2月) [食品・エネルギーを除く]	前月比 前月比	+0.4% +0.2%	+0.3% 0.0%	+0.2% 0.0%
		10年国債入札				
	中	消費者物価指数(2月)	前年比	▲0.3%	▲0.3%	+0.2%
3/11(木)	日	国内企業物価指数(2月)	前月比 前年比	+0.5% ▲0.7%	+0.4% ▲1.6%	+0.5% ▲2.0%
		20年利付国債入札				
		米	30年国債入札			
	欧	ECB政策理事会				
3/12(金)	日	法人企業景気予測調査(1~3月期)				
	米	生産者物価指数(2月) [食品・エネルギーを除く]	前月比 前月比	+0.4% +0.2%	+1.3% +1.2%	+0.3% +0.1%

予想:情報ベンダー(Bloomberg等)の取りまとめた予想コンセンサス。予定は変更になる可能性があります。

日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス、中:中国、韓:韓国、印:インド、
尼:インドネシア、泰:タイ、比:フィリピン、伯:ブラジル、馬:マレーシア

3月のスケジュール

国内		米国他	
1	新車販売台数(2月)	1	米 製造業 ISM 指数(2月)
2	法人企業統計調査(10~12月期) 労働力調査(1月), 10年利付国債入札	2	
3		3	米 非製造業 ISM 指数(2月), ページブック(地区連銀経済報告)
4	消費動向調査(2月), 30年利付国債入札	4	米 パウエル FRB 議長対話(ウォールストリートジャーナル ジョブズサミット)(ライブストリーム) 労働生産性(10~12月期改訂), 製造業新規受注(1月)
5		5	米 貿易収支(1月), 雇用統計(2月)
6		6	
7		7	
8	雨宮日銀副総裁講演(読売新聞オンライン/ライブ 配信), 景気ウォッチャー調査(2月), 国際収支(1月速報) 景気動向指数(1月速報)	8	
9	GDP(10~12月期 2次速報), マネーストック(2月速報) 家計調査(1月), 毎月勤労統計(1月速報) 5年利付国債入札	9	米 3年国債入札
10		10	米 CPI(2月), 連邦財政収支(2月), 10年国債入札
11	企業物価指数(2月), 20年利付国債入札	11	欧 米 ECB 政策理事会 30年国債入札
12	法人企業景気予測調査(1~3月期)	12	米 ミシガン大学消費者信頼感指数(3月速報) PPI(2月)
13		13	
14		14	
15	機械受注統計(1月) 第3次産業活動指数(1月)	15	米 ネット対米証券投資(1月) ニューヨーク連銀製造業業況指数(3月)
16	黒田日銀総裁挨拶(FIN/SUM(フィンサム)2021) 設備稼働率(1月)	16	米 鉱工業生産・設備稼働率(2月), 小売売上高(2月)
17	資金循環統計(10~12月期速報) 貿易統計(2月)	17	米 FOMC(16・17日) 住宅着工・許可件数(2月)
18		18	米 フィラデルフィア連銀製造業業況指数(3月) 景気先行指数(2月) 英 英中銀金融政策委員会(17・18日)
19	日銀金融政策決定会合(18・19日) 日銀総裁定例記者会見, 消費者物価(2月全国)	19	
20	春分の日(日本休場)	20	
21		21	
22		22	米 中古住宅販売件数(2月)
23		23	米 経常収支(10~12月期), 新築住宅販売件数(2月) 2年国債入札
24	日銀金融政策決定会合議事要旨(1/20・21分)	24	米 耐久財受注(2月), 5年国債入札
25	40年利付国債入札	25	米 GDP(10~12月期確定), 企業収益(10~12月期) 7年国債入札
26	消費者物価(3月都区部)	26	米 ミシガン大学消費者信頼感指数(3月確報) 個人所得・消費支出(2月) 独 ifo 景況感指数(3月)
27		27	
28		28	
29	日銀金融政策決定会合における主な意見(3/18・19分)	29	
30	商業動態統計(2月速報), 労働力調査(2月) 2年利付国債入札	30	米 カンファレンスボード消費者信頼感指数(3月)
31	鉱工業生産(2月速報), 住宅着工統計(2月)	31	米 シカゴPMI指数(3月)

網掛け部分は休場を示す〔予定は変更の可能性があります〕。日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス
(出所)みずほ総合研究所作成

4月のスケジュール

国内		米 国 他	
1	日銀短観(3月調査), 新車販売台数(3月) 10年利付国債入札	1	米 製造業ISM指数(3月)
2		2	米 聖金曜日(米国休場) 雇用統計(3月)
3		3	
4		4	
5	家計調査(2月)	5	米 非製造業ISM指数(3月), 製造業新規受注(2月)
6	毎月勤労統計(2月速報), 30年利付国債入札	6	
7	景気動向指数(2月速報)	7	米 FOMC議事録(3/16・17分) 貿易収支(2月) G20(20か国財務大臣・中央銀行総裁会議)
8	景気ウォッチャー調査(3月), 国際収支(2月速報) 消費動向調査(3月), 5年利付国債入札	8	
9		9	米 PPI(3月)
10		10	
11		11	
12	企業物価指数(3月)	12	米 3年国債入札, 10年国債入札
13	マネーストック(3月速報)	13	米 CPI(3月), 連邦財政収支(3月), 30年国債入札
14	機械受注統計(2月)	14	米 ベージュブック(地区連銀経済報告)
15		15	米 鉱工業生産・設備稼働率(3月), 小売売上高(3月) ネット対米証券投資(2月) フィラデルフィア連銀製造業業況指数(4月) ニューヨーク連銀製造業業況指数(4月)
16		16	米 ミシガン大学消費者信頼感指数(4月速報) 住宅着工・許可件数(3月)
17		17	
18		18	
19	貿易統計(3月), 設備稼働率(2月)	19	
20	20年利付国債入札	20	
21		21	
22		22	欧 ECB政策理事会 米 中古住宅販売件数(3月), 景気先行指数(3月)
23		23	米 新築住宅販売件数(3月)
24		24	
25		25	
26		26	米 耐久財受注(3月), 2年国債入札, 5年国債入札 独 ifo景況感指数(4月)
27	日銀「経済・物価情勢の展望」(基本的見解) 日銀金融政策決定会合(26・27日) 日銀総裁定例記者会見	27	米 カンファレンスボード消費者信頼感指数(4月) 7年国債入札
28	商業動態統計(3月速報), 2年利付国債入札	28	米 FOMC(27・28日)
29	昭和の日(日本休場)	29	米 GDP(1~3月期速報)
30	住宅着工統計(3月), 鉱工業生産(3月速報) 消費動向調査(4月)	30	米 ミシガン大学消費者信頼感指数(4月確報) シカゴPMI指数(4月), 個人所得・消費支出(3月) 雇用コスト指数(1~3月期)

網掛け部分は休場を示す〔予定は変更の可能性があります〕。日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス
(出所)みずほ総合研究所作成

四半期スケジュール

	5月	6月	7月
日本	6 新車販売台数(4月) 7 毎月勤労統計(3月速報) 11 10年利付国債入札 13 景気ウォッチャー調査(4月) 国際収支(3月速報) 30年利付国債入札 14 マネーストック(4月速報) 17 企業物価指数(4月) 10年物価連動国債入札 18 GDP(1~3月期1次速報) 19 設備稼働率(3月) 5年利付国債入札 20 貿易統計(4月) 21 20年利付国債入札 27 40年利付国債入札 31 鉱工業生産(4月速報) 商業動態統計(4月速報) 消費動向調査(5月) 2年利付国債入札	1 法人企業統計調査(1~3月期) 新車販売台数(5月) 8 GDP(1~3月期2次速報) 景気ウォッチャー調査(5月) 国際収支(4月速報) 9 マネーストック(5月速報) 10 企業物価指数(5月) 11 法人企業景気予測調査(4~6月期) 14 設備稼働率(4月) 16 貿易統計(5月) 18 日銀金融政策決定会合(17・18日) 日銀総裁定例記者会見 25 資金循環統計(1~3月期速報) 29 商業動態統計(5月速報) 30 鉱工業生産(5月速報)	1 日銀短観(6月調査) 新車販売台数(6月) 8 景気ウォッチャー調査(6月) 国際収支(5月速報) 9 マネーストック(6月速報) 14 設備稼働率(5月) 16 日銀「経済・物価情勢の展望」(基本的見解) 日銀金融政策決定会合(15・16日) 日銀総裁定例記者会見 21 貿易統計(6月) 30 鉱工業生産(6月速報) 商業動態統計(6月速報)
米国	3 製造業ISM指数(4月) 4 貿易収支(3月) 5 非製造業ISM指数(4月) 6 労働生産性(1~3月期暫定) 7 雇用統計(4月) 11 3年国債入札 12 CPI(4月) 連邦財政収支(4月) 10年国債入札 13 PPI(4月) 30年国債入札 14 ミシガン大学消費者信頼感指数(5月速報) 鉱工業生産・設備稼働率(4月) 小売売上高(4月) 17 ニューヨーク連銀製造業業況指数(5月) 18 住宅着工・許可件数(4月) 19 FOMC議事録(4/27・28分) 20 フィット・リポート連銀製造業業況指数(5月) 景気先行指数(4月) 21 中古住宅販売件数(4月) 25 新築住宅販売件数(4月) カンファレンス・ドット消費者信頼感指数(5月) 2年国債入札 26 5年国債入札 27 GDP(1~3月期暫定) 企業収益(1~3月期暫定) 耐久財受注(4月) 7年国債入札 28 ミシガン大学消費者信頼感指数(5月確報) シカゴPMI指数(5月) 個人所得・消費支出(4月)	1 製造業ISM指数(5月) 2 ベージュブック(地区連銀経済報告) 3 労働生産性(1~3月期改訂) 非製造業ISM指数(5月) 4 雇用統計(5月) 8 貿易収支(4月) 3年国債入札 9 10年国債入札 10 CPI(5月) 連邦財政収支(5月) 30年国債入札 11 ミシガン大学消費者信頼感指数(6月速報) 15 鉱工業生産・設備稼働率(5月) PPI(5月) 小売売上高(5月) ニューヨーク連銀製造業業況指数(6月) 16 FOMC(15・16日) 住宅着工・許可件数(5月) フィット・リポート連銀製造業業況指数(6月) 景気先行指数(5月) 22 中古住宅販売件数(5月) 2年国債入札 23 経常収支(1~3月期) 新築住宅販売件数(5月) 5年国債入札 24 GDP(1~3月期確定) 企業収益(1~3月期改訂) 耐久財受注(5月) 7年国債入札 25 ミシガン大学消費者信頼感指数(6月確報) 個人所得・消費支出(5月) 29 カンファレンス・ドット消費者信頼感指数(6月) シカゴPMI指数(6月)	1 製造業ISM指数(6月) 2 貿易収支(5月) 雇用統計(6月) 6 非製造業ISM指数(6月) 7 FOMC議事録(6/15・16分) 12 連邦財政収支(6月) 3年国債入札 10年国債入札 13 CPI(6月) 30年国債入札 14 PPI(6月) ベージュブック(地区連銀経済報告) 15 鉱工業生産・設備稼働率(6月) フィット・リポート連銀製造業業況指数(7月) ニューヨーク連銀製造業業況指数(7月) 16 ミシガン大学消費者信頼感指数(7月速報) 小売売上高(6月) 20 住宅着工・許可件数(6月) 22 中古住宅販売件数(6月) 景気先行指数(6月) 26 新築住宅販売件数(6月) 2年国債入札 27 耐久財受注(6月) カンファレンス・ドット消費者信頼感指数(7月) 5年国債入札 28 FOMC(27・28日) 29 GDP(4~6月期速報) 7年国債入札 30 ミシガン大学消費者信頼感指数(7月確報) シカゴPMI指数(7月) 個人所得・消費支出(6月) 雇用コスト指数(4~6月期)
欧州	6 英中銀金融政策委員会(5・6日)	10 ECB政策理事会 24 英中銀金融政策委員会(23・24日)	22 ECB政策理事会

予定は変更の可能性があります
(出所) みずほ総合研究所作成

今週の金融市場の動き

[海外金利]

	2/25	2/26	3/1	3/2	3/3	3/4	前週末比
ドルLIBOR 3M(%)	0.19050	0.18838	0.18425	0.18338	0.19375	0.17550	▲ 0.013
ユーロドル金先 (Mar23)	99.475	99.470	99.525	99.540	99.505	99.465	▲ 0.005
米国債(10年、%)	1.520	1.405	1.417	1.391	1.481	1.564	0.159
スワップ金利(10年、%)	1.573	1.470	1.496	1.460	1.550	1.635	0.165
独国債(10年、%)	▲ 0.232	▲ 0.260	▲ 0.334	▲ 0.352	▲ 0.288	▲ 0.311	▲ 0.051
英国債(10年、%)	0.784	0.820	0.759	0.687	0.779	0.731	▲ 0.089

[内外株式]

	2/25	2/26	3/1	3/2	3/3	3/4	前週末比
ダウ平均(ドル)	31,402.01	30,932.37	31,535.51	31,391.52	31,270.09	30,924.14	▲ 8.23
S&P500指数	3,829.340	3,811.150	3,901.82	3,870.29	3,819.720	3,768.47	▲ 42.68
NASDAQ総合指数	13,119.39	13,192.35	13,588.83	13,358.79	12,997.75	12,723.47	▲ 468.88
日経平均(円)	30,168.27	28,966.01	29,663.50	29,408.17	29,559.10	28,930.11	▲ 35.90
TOPIX(Pt.)	1,926.23	1,864.49	1,902.48	1,894.85	1,904.54	1,884.74	20.25
出来高(百万株)	1,460.95	1,688.76	1,250.01	1,292.67	1,206.50	1,285.61	▲ 403.15
売買代金(億円)	29,211.44	36,212.86	24,773.09	26,132.12	24,664.38	27,612.65	▲ 8600.21
日経JASDAQ平均(円)	3,834.05	3,798.00	3,815.90	3,809.12	3,813.95	3,777.36	▲ 20.64

[円金利]

	2/25	2/26	3/1	3/2	3/3	3/4	前週末比
TIBOR 3カ月(%)	▲ 0.055	▲ 0.055	▲ 0.055	▲ 0.055	▲ 0.055	▲ 0.055	0.000
ユーロ円金先 (Mar21)	100.045	100.045	100.060	100.055	100.055	100.055	0.010
新発国債(10年、%)	0.150	0.150	0.150	0.125	0.115	0.130	▲ 0.020
長国先物 (Mar21)	150.87	150.62	150.81	151.14	151.12	151.00	0.38
スワップ金利(5年、%)	0.031	0.030	0.024	0.007	0.011	0.016	▲ 0.015

[為替]

	2/25	2/26	3/1	3/2	3/3	3/4	前週末比
円/\$	106.21	106.57	106.76	106.69	107.01	107.98	1.41
\$/EUR	1.2175	1.2075	1.2049	1.2091	1.2063	1.1969	▲ 0.0106
円/EUR	129.32	128.67	128.64	129.01	129.09	129.24	0.57

(注) 前週末比は、海外などについては現時点での直近値と前週末値との比較。

東京市場の発行日表示値は終値。

米国10年債、米金利スワップ10年物はBloombergの終値。

日本株出来高・売買代金はそれぞれ東京証券取引所第一部出来高・売買代金。

TIBORは全銀協発表のユーロ円TIBOR平均値。

新発10年国債は日本相互証券発表の気配値。

金利先物は東京金融取引所(TFX)のユーロ円3ヵ月金利先物。

独・英10年国債はBloombergの提示する終値。

為替はNY時間終値(出所:Bloomberg)。

最新レポート一覧

<みずほインサイト>

- 2021年2月26日 日本のワクチン接種シナリオ ～週300～400万回接種で来年前半に集団免疫獲得へ～
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/jp210226.pdf>
- 2021年2月10日 東南アジアのESG情報開示の課題 ～マレーシアとシンガポールを事例に～
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/as210210.pdf>
- 2021年2月9日 バイデン政権の通商政策の展望 ～多国間協調への転換と「米国第一」の継続～
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/pl210209.pdf>
- 2021年1月22日 2021年度の年金額は0.1%引き下げ ～将来世代の給付水準確保に向けた改革を～
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/pl210122.pdf>
- 2021年1月18日 コロナ・ショックでも変わらない新興国産業の成長性
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/as210118.pdf>
- 2021年1月12日 綱渡りが続くブラジル財政 ～問われる巨額財政出動の出口戦略～
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/us210112.pdf>
- 2021年1月8日 二度目の緊急事態宣言の影響 ～2020年度の経済成長率は▲0.3%Pt低下の見通し～
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/jp210108.pdf>

<内外経済見通し>

- 2021年2月16日 2020～2022年度内外経済見通し
～コロナ後を見据えたデジタル化・グリーン化投資が加速～
https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/forecast/outlook_210216.pdf
- 2020年12月10日 2020・2021年度内外経済見通し
～世界経済は回復も、家計・企業行動の違いから各国でばらつき～
https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/forecast/outlook_201210.pdf

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。なお、当社は本情報を無償でのみ提供しております。当社からの無償の情報提供をお望みにならない場合には、配信停止を希望する旨をお知らせ願います。

発行・編集／みずほ総合研究所 調査本部
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-2-1 TEL.03-3591-1296